

# 京都府の地震活動

令和7年（2025年）11月

第 38 巻 11 号

京都地方気象台

## 目 次

|   |       |
|---|-------|
| 震央分布図、概況                                  | ・・・ 1 |
| 震央分布図、断面図                                 | ・・・ 2 |
| 【地震一口メモ】緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について         |       |
| ～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沖合システム」の活用を開始しました～ | ・・・ 3 |

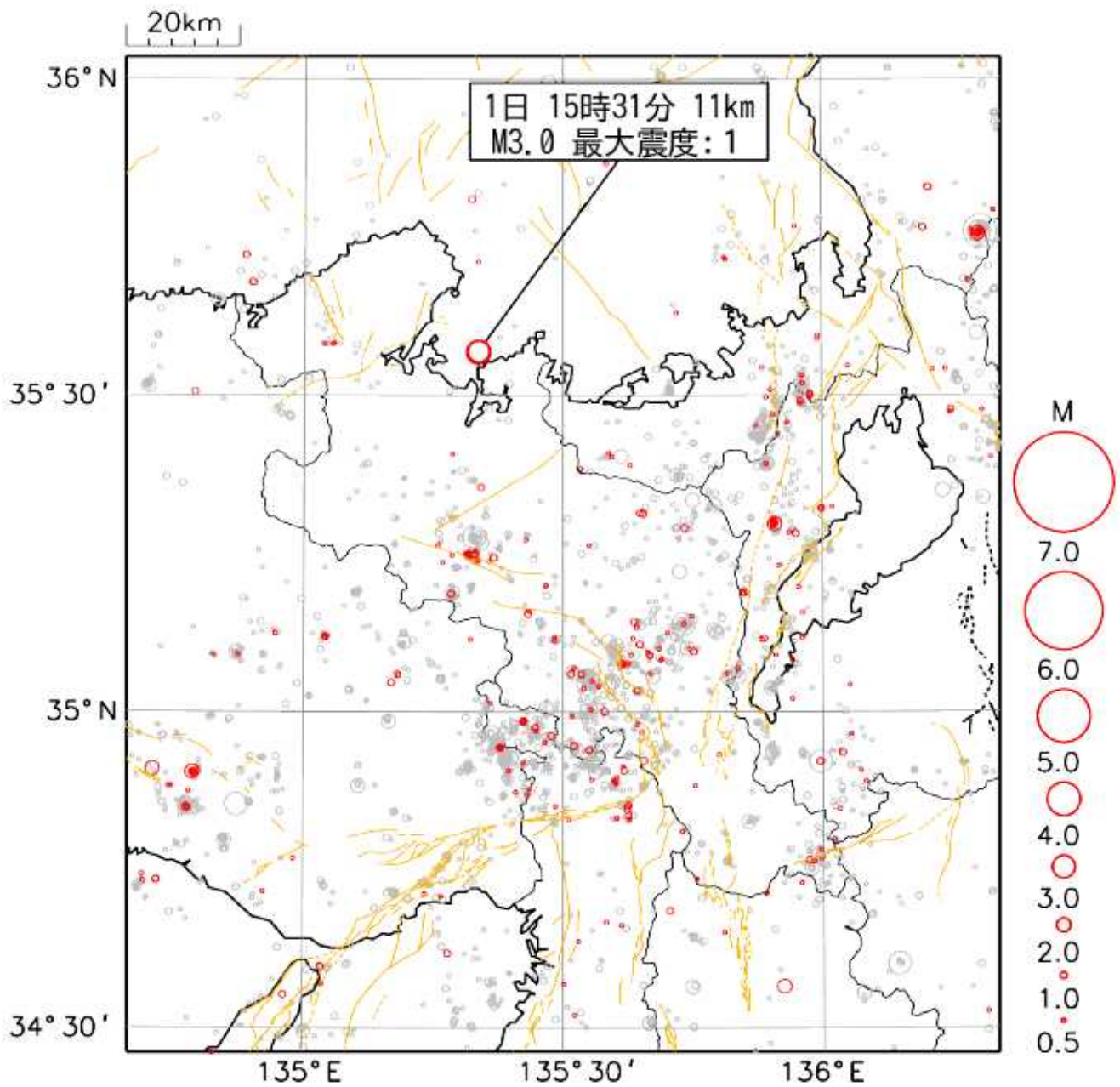
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

## 震央分布図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



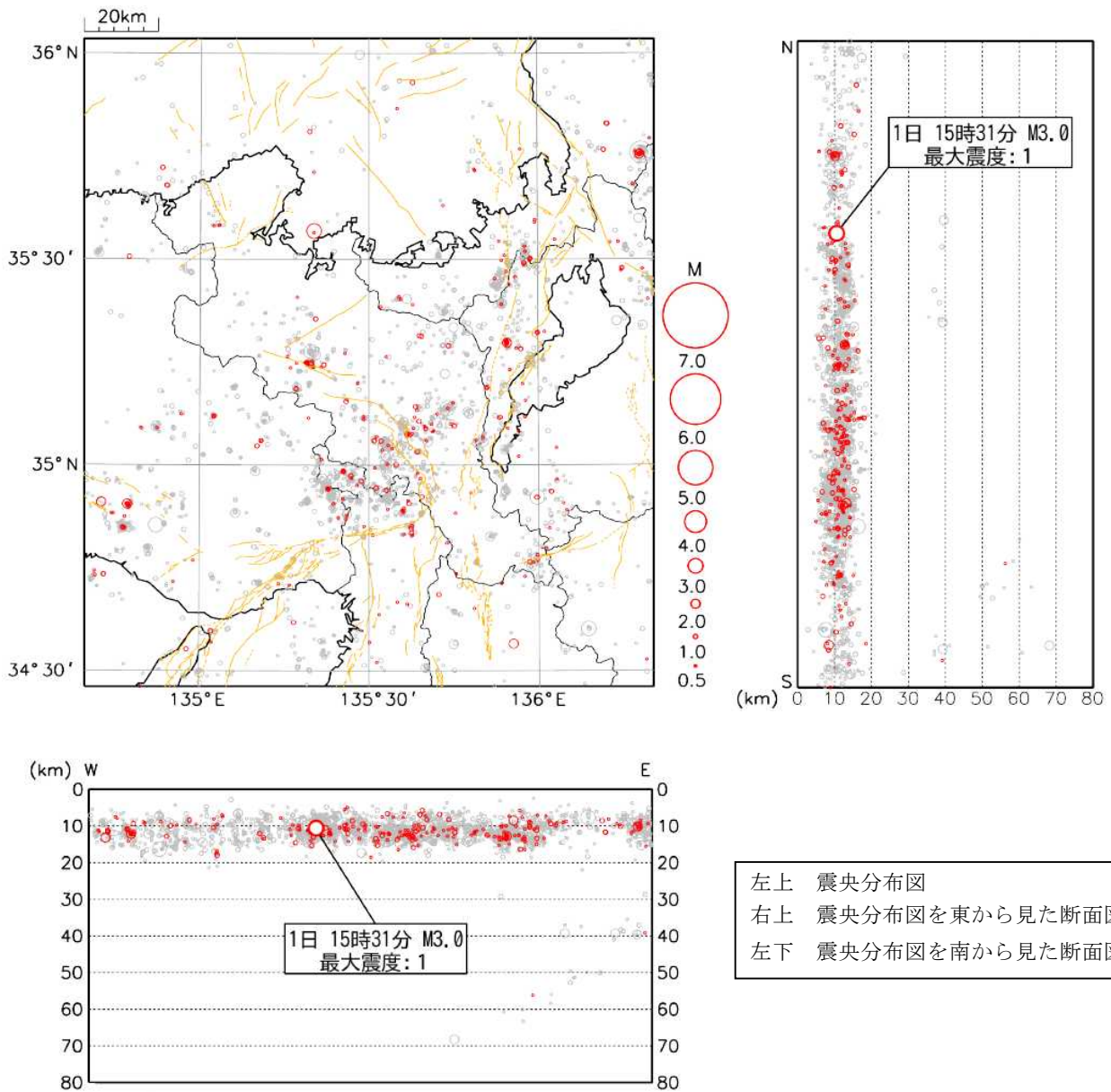
- ・（2024年12月1日～2025年11月30日、深さ 0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2025年11月の地震を赤く表示（総数254）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに応じたサイズで表記。
- ・震度 1 以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

### 概況

11 月中、震央分布図内で観測したマグニチュード 2.0 以上の地震は 6 回、震度 1 以上の揺れを観測した地震は 1 回でした（10 月はそれぞれ 3 回、1 回）。

京都府内で震度 1 以上を観測した地震はありませんでした（10 月は 0 回）。

## 震央分布図、断面図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



- ・ (2024年12月1日～2025年11月30日、深さ 0～80km、 $M \geq 0.5$ )
- ・ 2025年11月の地震を赤く表示（総数254）
- ・ 震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・ 震度 1 以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・ 橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

## 【地震一口メモ】

### 緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について

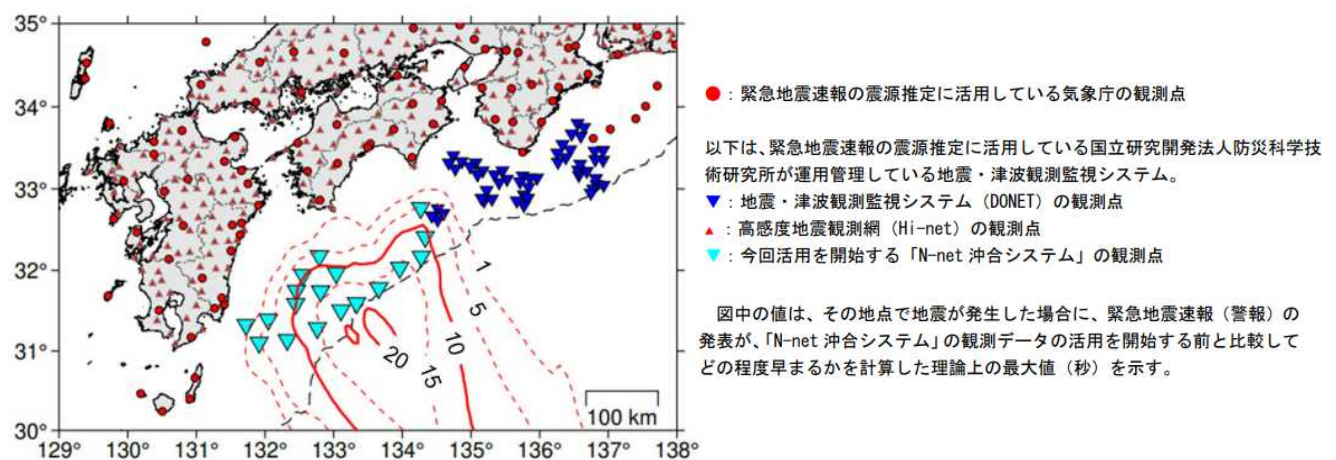
#### ～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沖合システム」の活用を開始しました～

国立研究開発法人防災科学技術研究所は、南海トラフ地震発生時の被害軽減や防災科学技術の発展に貢献することを目指し、南海トラフ地震の想定震源域のうち、それまで観測網が設置されていなかった西側（高知県沖から日向灘）の海底に、地震計と水圧計を備えた「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net ※）」を整備しました。N-net は令和 6 年に整備が完了した「沖合システム」と令和 7 年 6 月に整備が完了した「沿岸システム」から構成されます。※N-net : Nankai Trough Seafloor Observation Network for Earthquakes and Tsunamis

気象庁では、海域で発生する地震に対する緊急地震速報の発表の迅速化を図るため、関係機関の協力も得て、沖合に設置された海底地震計の観測データの緊急地震速報への活用を進めています。今般、「N-net 沖合システム（18 地点）」の地震計についてデータの品質確認等を行い、緊急地震速報へ活用する準備が整ったため、令和 7 年 10 月 15 日（水）12 時から緊急地震速報への活用を開始しました。

これにより、四国沖から日向灘にかけて発生する地震について発表する緊急地震速報（警報）が、最大で 20 秒程度早まることが期待されます。なお、「N-net 沖合システム」の津波観測データについては、令和 6 年 11 月 21 日より津波情報等へ活用されています。

#### 「N-net 沖合システム」の観測データ活用による緊急地震速報（警報）の迅速化



気象庁ホームページ「緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沖合システム」の活用開始～（令和 7 年 10 月 8 日）」

[https://www.jma.go.jp/jma/press/2510/08b/20251008\\_N-net.html](https://www.jma.go.jp/jma/press/2510/08b/20251008_N-net.html)